

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人敬英会		
事業所名	グループホーム 幸楽の里 [白樺]		
所在地	和歌山県橋本市隅田町山内1919-3		
自己評価作成日	平成28年7月30日	評価結果市町村受理日	平成28年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3071000453-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護力向上にキャリア段位への取り組み、資格習得を後押しすべく初任者研修取得支援、介護福祉士実践者研修支援金制度、介護福祉士勉強会等スキルアップに力を入れている。同じ敷地内に託児所や社宅も設けており、又、今年度より希望者には抽選にて野球観戦チケットプレゼントされ、リフレッシュを含め、職員が働きやすい環境作りにも力を入れている。自事業所の多機能化により、地域の方のニーズにも応えやすい環境にある。緑の山々に囲まれ、鳥のさえずりを聞きながら、季節の移り変わりを感じる事が出来る。建物自体も木造作りのあたたかさを感じる物であり自宅に近い雰囲気作りに心掛け日々穏やかに過ごして頂ける様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは自然に囲まれ季節を肌で感じられる場所に位置し気候の良い時期には散歩や外気浴したり、外出には家族の協力を得て個別支援や季節には弁当をもって出かけることが利用者の楽しみとなっています。ホーム独自の理念は家庭的な環境の中で残存機能を活かして尊厳のあるその人らしい暮らしをしてもらいたいとの思いを込め作成しており、開設から12年になり重度化していく中で排泄の自立支援や食事の支度等、一人ひとりの機能に合わせ持っている力を引き出せるよう日々の生活を支援しています。また、看取り支援にも取り組んでおり医療との連携を図り、家族にも泊まってもらうこともあり密な協力を得ながら、最期までその人らしく穏やかに生活出来るようチームワーク良くケアにあたっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の見直しには現在も至っていない。内容が細かく、全てを覚える事が難しい事が難点ではあるが、反面、問われている内容は理解し易い面もある。理念に添えるように実践につなげている。	開設時に考えられたホーム独自の理念は玄関やトイレに掲げ常に見え意識できるようにしています。改めて理念について話し合うことはありませんが、理念にそって日々の生活の中で家庭的な環境の中で一人ひとりの状態の変化に応じたケアや尊厳のある生活ができていますか会議の中で振り返る機会を作り話し合っています。今後理念の見直しに向けて話し合いたいと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件もあり日常的に交流は出来ていない。地域の運動会、盆踊りへの参加、施設主催のクリスマスは10名参加頂いている。山内子供クリスマス会への招待もあるが、職員人員の問題もあり参加出来ていない。	地域の夏祭りや運動会に利用者と一緒に参加したり、併設するデイサービスと餅つきなどの行事の際に交流しています。また傾聴ボランティアの月1回の訪問や高校生の職業体験を受入れています。秋には子供神輿が立ち寄ってくれたり、クリスマス会には地域の方の参加もあり交流の機会があり利用者の楽しみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議をとおして、老人会会長様より毎年依頼があり、法人として地域貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、老人会会長、介護保険課長、法人施設職員の構成で会議を開催し、取り組み、現状報告をしている。家族様の参加しやすい時間のアンケートも行ったが、参加しやすい時間の特定は難しく仕事を持っている方、高齢者と、諸事情があり無理にお願いはしていない。	会議は区長や長寿会会長、市職員の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。毎月の便りの中で家族の参加を呼びかけたり、個々に声をかけ参加を得たこともあります。利用者状況や行事、避難訓練の実施内容等の報告を行い、意見交換をしています。区長から地域の情報が得られ行事にも参加するなど、サービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括よりグループホームの紹介依頼があり、地域ケア研修会に参加、50名程のケアマネ、他事業所に説明の機会があった。基本、市からの依頼は出来る限り引き受け協力に応じている。	市の担当者は運営推進会議の参加もあり、わからないことがあれば電話でやり取りをし良好な関係が築かれています。市から依頼される地域研修会に出向き講義をすることがあったり、研修案内があれば参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回のフロア会議の際、テーマを決め勉強会を行い「拘束」について学んだり、何か問題が起こる都度、皆で話し合い何が「良いか」「悪いか」再度考え直している。常に念頭に置いて職務に当たらなければならないと思うが、日々の業務に終われ介護し易いケアになりがちになる。危険防止と、身体拘束の差が難しいと感じる事がある。	フロア会議で身体拘束について職員が学ぶ機会を作り、特に転倒の危険が伴う場合身体拘束につながらないケアについて話し合い家族にも相談しながら安全に暮らせるような支援を心がけています。玄関は施錠せず、利用者が外に出たい時は職員が付き添っています。言葉による拘束については管理者がその都度注意したり会議でも指導しています。	

グループホーム幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学ぶ機会は設けられていない。利用者への言葉づかいは皆で注意喚起し、入浴時にはあざチェックを行い、身体状態の把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員皆が学ぶ機会はないが、役職者は資格習得時に学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	おおむね長期入院退所にて解約に繋がる場合が多いが、家族様との話し合いを重ね、納得得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様へは面会時、ケアプラン説明時に要望や意見をお聞きしている。解決出来る事は早急に行い信頼関係を大切にしている。	毎月ホームの便りを送付したり面会時に利用者の状況を伝えるとともに家族から意見や要望を聞いています。体操や歩く機会を設けてほしいとの要望など個別に対応することが多い状況ですが、洗濯物の入れ違いの意見を受けて業務を見直すなど、職員間で話し合いサービスや運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のフロア会議に向け話し合いたい事を事前に職員がそれぞれが書き出し集約した内容に添って話を進めている。話し合った事を確実に実行するために、議事録を再度皆で読み直す様にしている。	月1回のフロア会議では、職員一人ひとりから事前に聞いた意見や提案を議題に取り上げ全員が意見を言えるように話し合っています。年2回の個人面談では言いやすい雰囲気の中で職員の意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入により自己レベルに応じた求められるレベルが明確になり努力に応じて給料のステップアップが望める様になっている。小さなお子さんをお持ちの職員には託児所があり、働きやすい環境にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら当法人にて初任者研修の資格を取れるシステム、介護福祉士の実務者研修費支援金制度、キャリア段位資格取得に取り組んでいる。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との相互訪問、交流の機会はない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅のケアマネ、家族様より情報を得、不安な気持ちにより添い、本氏の訴えを皆で共有し安心して生活が出来るように努めている。時にはお試しショートを利用し環境に慣れて頂く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には必ず、もう一つの家が出来たと思って下さいとお話をさせて頂き、関係性が途切れる事がないように、外出、外泊支援をお願いしている。初期段階は特に生活の様子を連絡し、家族様の安心にも繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望されている家族様に対しても、状態や希望をお聞きしつつ要望に応じて、他施設の紹介をさせて頂く事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を考慮し、お盆拭き、洗濯干し、たたみ等役割を持って頂き、人の為に働く喜びや充実感を感じて頂ける様感謝の気持ちを充分にお伝えする様心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本受診等できる範囲で家族様の協力を得ている。その事で主の体調や現状を理解して頂ける様に感じる。又主自身も家族様に大切にされていると安心感が満たされていると思われる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	歩行可能な利用者様についてはかかりつけ医や、かかりつけの美容院等家族様の支援にて継続できている。自ら施設での生活になった事をお手紙を出され、会いに来て下さる事もあった。	本人の希望から手紙を出し近隣の方の面会に繋がった例がある他、親せきや友人、教え子が面会に来ることもあり、来訪時は居室に案内しお茶を出しゆっくり過ごしてもらえよう配慮しています。家族の協力を得て行きつけの美容室や法事、地域の会合に出かける方もいます。また、自宅や墓参りの個別支援をしています。	

グループホーム幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、相性を理解しトラブルにならないように注意し、共に認め合い助け合える関係性を保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院にて契約が中断、終了した場合でもお見舞いに行き今後の相談や支援に努めている。又他界されたとの連絡を頂いた時は、出来るだけ最後のお見送に参列させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の訴えを傾聴し、希望や意向に添えるように努めている。フロア会議で職員からの意見を集約させ本人の状態に合わせ出来る限り穏やかに暮らせるように取り組んでいる。	入居の際にアセスメントシートに生活歴や生活状況、本人や家族の思いや意向を聞き記録に残し情報を共有しています。入居後は日々の関わりの中で表情やしぐさなどから思いの把握に努め、わからないことがあれば家族に聞いています。介護計画の更新時や変化があればその都度フロア会議で話し合い思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用時には、家族様、本人、ケアマネに生活歴をお聞きし、フェイスシートを通して職員皆で共有している。又本人より得た新たな情報は会議等で報告し支援に役に立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録のケースを記入、業務日誌にまとめ、日中、夜勤と一日の状態を把握介助にあたる様にしている。身体的な特変は赤字で、様子の変化や本人の訴えを青字で記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員がケアプランを作成するが、フロア会議で出た内容や利用者様に必要と思われる事家族様の意見や、本人の意向を考えケアプランに反映させている。	入居時アセスメントの基介護計画案を立て、毎月フロア会議で意見を聞き3ヶ月後に介護計画を立案し、その後の見直しは状況に合わせて3ヶ月から6ヶ月毎に、変化があればその都度行っています。見直しにあたっては、本人や家族の思いや意向を再確認し、医師に受診や往診時に意見を聞き介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人の様子や状態を記録に残す様に努めているが、見直しに活かすところまでの記録は出来ていないと思われる。日々の利用者の様子や会議提案を基に見直しをしている。		

グループホーム幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問理容、受診の支援、新規入所荷物の運搬手伝い、必要に応じ入院時の食事介助、退所時の不必要な物の廃棄処分等、出来る限りの要望に応える様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の多くの行事に参加、漬物売りや、お茶配りの接待と「ありがとう」と言われる側になり嬉しい表情を読み取り事が出来る。月一回のボランティアさんとも馴染みの関係性が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医の延長が多いが、受診が難しい状態になられた時は家族様との協議の上で往診の支援を受けている。	ほとんどの方が入居前のかかりつけ医を継続し、受診は家族対応が基本ですが状況によっては職員が付き添ったり、往診に対応してもらえることもあります。日々の健康管理は看護職員が行い、利用者の体調の変化があった時には相談しています。また必要時歯科の往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変にいち早く気づき、個人ケースへの記入を忘れず経過観察を重要視し適切に伝える事が出来るよう、日々気をつけている。ターミナルの利用者に関しては別と看護師記録を作成し職員、看護師、主治医が協働出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、支援相談員、必要ならば、主治医との話し合い等密なやり取りを行っている。お見舞いを重ね利用者の状態の把握、より良い状態で迎える事ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時々状態に合わせて職員、主治医、訪看、家族、一同全てを共有し心をつなげて命の最後に向き合っている。先月、開設よりご利用頂いていた方を看取り安らかに旅立たれた。	重度化や看取りについては、入居時に指針に基づいて説明しています。看取りの支援経験もあり、終末期には主治医から家族に説明し、職員は訪問看護師の医療的な細かいアドバイスや指示のもと協力体制を築き家族にも協力を得ながら支援しています。その後は終末期ケアについての勉強会を行い振り返っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平常の状態をよく知り特変にいち早く気づき即対応出来るように努めている。消防士さんの協力を得て避難訓練や応急手当や初期対応の訓練をグループホーム単独又は法人で行っている。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はしているが大きな災害となると自信がない。普段から地域の行事に参加する事によりコミュニケーションを築きまさかの時の協力体制に繋がるものと信じ多くの事に参加している。	避難訓練は年1回、昼間を想定して自主訓練を行っています。消火器の使用方法や避難誘導等を利用者と一緒に行い、運営推進会議で報告しています。備蓄としては米と水を準備しています。	訓練は更に1回職員の少ない夜間を想定し、消防署の協力を得た訓練を実施し、併設施設との協力体制や地域の情報等を得られるよう検討されてはいいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に気配り心配りの重大さを感じ対応している。会議に皆で注意し合い一人一人の尊厳を最重要化しつつ、優しさを表した声掛けや行動に努めている。	フロア会議で接遇面や方言を使う中での語尾の使い方、声のトーンについて等話し合い、利用者を尊重した対応に努めています。不適切な対応があった場合はその都度注意し合ったり、会議の議題にあげています。排泄や入浴時には羞恥心に配慮しプライバシーを損ねないケアを心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に努め自己決定に至るまでにプロセスを重んじて決定した事に関しては尊重している。訴えを最後まで聞くことに努め寄り添う事の重要さ大切さを日々忘れず行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調をまず把握し無理のない一日となれるよう、その人のペースでの希望を行動を認めより添っている。一人ひとりの希望を終日とはいかないが支援出来る限りと努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全ての人が自己決定する事は難しくスタッフでの決定となる事が多々あるがTPOにあったおしゃれの支援に努めている。訪問理容や家族様の協力へて散髪支援、身だしなみに留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れた食事内容に努めている。一人ひとり好みを考えた献立には至っていないが、サバが嫌いな利用者には違う魚を提供と臨機応変に対応している。食事の準備等は出来る人出来る事をお願いし、時間がかかっても達成感を感じて頂けるように見守っている。	献立は同じものが重ならないように職員が考え、季節の食材を使い一人ひとりの好き嫌いや形態に配慮しています。食事の支度は皮むきや盛り付け等利用者と一緒に行い、誕生日や正月などの行事には赤飯やおせち等の特別食を作っています。かしわもちやおはぎなどのおやつ作りをしたり、時には外食に出かけるなど食事を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に夏場の今日、水分確保は不可欠であり日々ケースに水分量を記入し一人ひとりに合った摂取に努めている。食事量低下時はアイスクリームや好みの食べ物を提供し利用者の状態に応じて対応している。		

グループホーム幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、自ら出来る方は声掛け見守りを行い、寝る前にホリデント衛生にも配慮している。週一回、希望者は歯科衛生士による口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録を確認し個々の排尿パターンにてトイレ誘導、出来る限りトイレでの排泄に心がけている。	一人ひとりの記録から排泄パターンを把握し、サインを見逃さずに個々のタイミングでトイレに行けるよう支援しています。退院後におむつから紙パンツに変更した方や皮膚の状態を見て布の下着に変更したり、その時の状況に応じてパット等の排泄用品を検討する等、自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無は排便表で確認し主治医指示のもと薬の調整を行っている。朝のコーヒータイムには牛乳を使い飲んで頂いている。一日の水分量を把握、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後と時間を設け各日に入浴して頂いている。利用者の状態に合わ声掛けのタイミングを配慮している。	入浴は隔日に日中に希望を聞きながら支援し、希望があれば毎日入浴も可能で、状況によってはシャワー浴や足浴をしています。また夕食後の入浴にも対応していたこともあります。拒否される利用者については時間やタイミングを見て声をかけたり、日にちを変更することもあります。入浴剤を使用したり、季節には菖蒲湯や柚子湯を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせ、お部屋で休む時間、お昼寝の声掛けをしている。夏、冬と温度に合わせて掛け布団を変え、高反発マットを使用し身体への負担を軽減させている。又適度に布団を干し気持ちよく休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬ケースに薬名、用法が記入されたものが添付されており、服薬の変更がある時は申し送りノートで職員間で共有している。特に精神薬や、眠剤が新たに処方された時は特に注意し、変化が見られた場合は主治医、家族に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担の内容に考慮しつつお手伝いをお願い、又自身の役割として自らお手伝いを言ってお下さる事もある。自らしたい毎日日記や、読書、数人で行う必ず皆が花丸をもらう計算ドリル等を行い認知力低下にも努めている。		

グループホーム 幸楽の里(白樺)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や外気浴は希望に応じ対応しているがその日の希望に応じ出かける事は難しい。法人で行く一泊旅行は希望者ではあるが大変喜ばれている。気候の良い季節は出来る限り戸外への外出を計画し季節を感じて頂くように努めている。	気候の良い時期には散歩に出かけたり外気浴を行い、日常的に洗濯物を干したりゴミ出しに行っています。遠足や季節ごとに桜や菜の花、紫陽花、コスモスを見に弁当を持って出かけたり、地域の行事に参加しています。家族の協力を得て外出することもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現利用者で所持されている方はいないが、本人の強い希望があれば支援に添うことは出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙支援は希望がありはがきを購入するなどの支援を行った。電話の希望は現在ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に衛生面に気をつけ清潔を保つよう部屋の掃除、フロアの掃除、トイレに至っては一日二回実施している。適度な空気の入替え、室温は利用者に合わせ室温計を見ながら温度調整を行っている。共有の空間には季節の花を飾り心地よく過ごせる様に配慮している。	フロアの温度や湿度管理を行い、空気清浄器を置き換気にも気を配っています。壁には利用者で作った季節の作品や写真が飾られ、随所に生花を置き季節を感じられるようにしています。廊下には畳ソファーや椅子が置かれ休憩場所や一人になれる場所も作っています。テーブル配置にも工夫し食事作りの音が聞こえたり、匂いが漂い居心地の良い空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには机が二つ、ソファーが数か所置かれており、自身が落ち着く場所がそれぞれに有る様子である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規入所時には使い慣れた物をと家族さまには説明をしている。	表札は木に自筆や家族が書かれたものでわかりやすくしています。広い居室の中に使い慣れた鏡台やなじみの椅子やテーブル、ダンス等を置き、家族の写真を飾るなど、その人らしい居室づくりをしています。趣味の将棋道具を持ち込みテレビを見ながら楽しんでいる方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新規入所時にはトイレ等に目印をつけ、対応している。		